

付

特許・実用新案登録一覽

—昭和53年度—

<日本特許> 119件

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
1	47-120599 (47.12.4)	52-21639 (52.6.11)	893331 (53.1.18)	繊維の難燃処理法 (藤井 一, 服部 達夫)	天然繊維または/および合成繊維をトリメチロールシクロトリメチレントリアミンに炭素数1~3のジアルキルホスファイトまたはジ(ハロゲン)アルキルホスファイトを縮合させて得られる一般式 $\begin{array}{c} \text{HOH}_2\text{C}-\text{N} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{CH}_2 \quad \text{CH}_2 \\ \quad \quad \\ \text{N} \quad \quad \text{N}-\text{CH}_2-\text{P}(\text{OR})_2 \\ \diagup \quad \diagdown \\ \text{X} \quad \quad \text{CH}_2 \end{array}$ (但し、XはCH ₂ OHまたはCH ₂ -P(OR) ₂ 、Rは炭素数1~3のアルキル基若しくはハロゲンアルキル基である) で示される化合物を含有する溶液で処理することを特徴とする繊維の難燃処理法。
2	48-21208 (48.2.23)	52-22397 (52.6.17)	893332 (53.1.18)	クロロプレン共重合体の製法 (大鶴 雅昭, 宮川 俊男)	アルキルアルミニウムセスキハライド、三塩化バナジルおよび水からなる三成分系触媒を用いて、クロロプレンまたはこれと他の共役ジエンとの混合物と共役極性ビニル化合物の少なくとも一種とを共重合させることを特徴とするゴム状弾性体の製法。
3	49-72369 (49.6.26)	52-22797 (52.6.20)	893333 (53.1.18)	スチレンオリゴマーのアルキル化方法 (小坂勇次郎, 井村 信一, 齊藤 光高, 佐藤 真一)	フリーデル・クラフツ触媒の存在下、オレフィンを低分子量スチレン重合体と反応させることによるエチレン共重合体の接着性を向上させる重合体の製造方法。
4	49-101381 (49.9.5)	52-21492 (52.6.10)	893334 (53.1.18)	シアノ基を有する共役ジエンの製造方法 (野中 悠次, 木原 啓一, 弘中 敏夫, 小田 康弘)	一般式 $\begin{array}{c} \text{CN} \quad \text{R}_1 \\ \quad \\ \text{CH}_2=\text{C}-\text{CH}-\text{CH}-\text{R}_2 \\ \\ \text{OH} \end{array}$ で表わされる2-シアノ-3-ヒドロキシ-1-オレフィン化合物を担体に担持させた塩基性物質の存在下に液相で脱水化することによって、一般式 $\begin{array}{c} \text{CN} \quad \text{R}_1 \\ \quad \\ \text{CH}_2=\text{C}-\text{CH}=\text{C}-\text{R}_2 \end{array}$ で表わされるシアノ基を有する共役ジエン (ただし、上記の一般式中 R ₁ , R ₂ は水素原子, アルキル基またはフェニル基を示す。)を製造することを特徴とするシアノ基を有する共役ジエンの製造方法。

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
5	50-29508 (50. 3.13) (小坂勇次郎, 井村 信一, 齊藤 光高)	52-23660 (52. 6.25)	893335 (53. 1.18)	エチレン系グラフト共 重合体エマルジョンの 製造方法	<p>エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下, α β 不飽和カルボン酸および/またはその無水物と一般式</p> $\text{CH}_2=\text{C} \begin{array}{l} \diagup \text{X} \\ \diagdown \text{Y} \end{array}$ <p>(ただしX, Yは異種または同種で, 水素, 塩素, アルキル基, アセトキシ基, カルボン酸エステル基からなる群から選ばれる)を有する少なくとも一種のビニリデン単量体を共重合することによって得られるカルボキシル化エチレン共重合体中のカルボン酸の50化学当量%以上を中和することを特徴とする自己乳化性エチレン系グラフト共重合体エマルジョンの製造方法。</p>
6	46-59628 (46. 8. 9) (小坂勇次郎, 植村 勝, 藤木 時男, 齊藤 光高)	52-25409 (52. 7. 7)	893857 (53. 1.18)	カルボキシル化重合体 から成る粘着剤組成物	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下無水マレイン酸とアルキルアクリレートとを共重合させて得られる重合体を30~70重量%と粘着性付与, 粘度低下付与の目的で配合せられる変性剤70~30重量%より成る粘着剤組成物。
7	48-93066 (48. 8.20) (西村 充, 竹内 愛三, 齊藤 孝男, 長野 弘幸)	52-22664 (52. 6.18)	895753 (53. 2.14)	ポリオレフィン射出架 橋発泡用金型	ポリオレフィン又はポリオレフィン共重合樹脂に架橋剤, 発泡剤, 離型剤等を加えてなる配合物を射出成形機にて加熱した金型に射出し, 架橋発泡体を得る成形法に使用される金型にして, キャビティ, コアがおさまる程度の部分を中金型とし該中金型は熱伝導性のよい金属材料で構成して外金型に着脱可能に取付けられ, 前記中金型と外金型の界面には熱板, 断熱板が挿入可能な空間を設けたことを特徴とするポリオレフィン射出架橋発泡用金型。
8	42-69271 (42.10.27) (大木慎一郎)	51-33944 (51. 9.22)	897273 (53. 2.14)	ポリオレフィンの発泡 体製造法	ポリオレフィンに架橋剤と発泡剤を混入し, ついで該材料をホッパを通して加熱筒に送り, 流動状態にならしめた後加熱された金型内に射出充填し, 該金型キャビティ内でポリオレフィンを架橋させると共に発泡セルを構成させ, 該金型開放と同時に発泡セルを拡大させて製品とする方法。
9	42-71466 (42.11. 8) (村上 浩, 足立 和生, 久保 恵治, 近江 昭治)	52-12209 (52. 4. 5)	897274 (53. 2.14)	塗料用樹脂組成物	セルローズ誘導体と炭素数10-25で塩素含有量が20~70重量%の直鎖状炭化水素の塩素化物および溶剤を含む塗料用樹脂組成物。
10	45-94359 (45.10.28) (藤井 一, 服部 達夫)	52-28797 (52. 7.28)	898605 (53. 2. 5)	ハロゲンを含む1-アジ ジニルリン酸エステ ル類の製造方法	炭素数3~4のハロゲン含有アルコール類の1種以上と, エチレンイミンあるいは2-メチルアジリジンとオキソ塩化リンを反応せしめることを特徴とするハロゲンを含む1-アジジニルリン酸エステル類の製造方法。
11	46-37813 (46. 6. 2) (小野 勲, 柳原 忠久, 深堀建太郎, 下村 清一)	52-28776 (52. 7.28)	898606 (53. 2.25)	ジアセトキシブテンの 製造法	ブタジエン, 酢酸および酸素を含む混合ガスをパラジウムとアンチモンおよびビスマスの少くとも一種およびアルカリまたはアルカリ土類金属の少くとも一種からなる触媒を使用して, 気相流通反応させて, ジアセトキシブテンを製造する方法。

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要 旨
12	46-84699 (46.10.27)	52-29294 (52. 8. 1)	898607 (53. 2.25)	不飽和エステルの製造法 (齊藤 寿広, 高野 操, 森山 茂, 村山 浩)	アルミナの亜鉛スピネルを担体として、これに(1)パラジウムならびに金及びウラン、又は(2)パラジウム及びウランを担持させた触媒を用いて、低級不飽和炭化水素と、酸素又は酸素含有ガスと、低級脂肪酸とを気相で反応させることを特徴とする不飽和エステルの製造法。
13	47-19644 (47. 2.28)	52-29305 (52. 8. 1)	898608 (53. 2.25)	2-ニトロシクロアルカノンの製造方法 (山田 静夫, 佐々木博朗, 田中 哲夫)	シクロアルケン、二酸化窒素と酸素から2-ニトロシクロアルカノンを製造する方法において、N-アルキル置換アミド系化合物(但くジメチルホルムアミドは除く)または該化合物と芳香族炭化水素、ハロゲン置換炭化水素、エーテル類の少なくとも1種の存在下に反応させることを特徴とする2-ニトロシクロアルカノンの製造方法。
14	47-41747 (47. 4.27)	52-29718 (52. 8. 3)	898609 (53. 2.25)	アクリル酸を製造する触媒 (小野 勲, 加藤 喬雄, 長浜 武敏)	アクロレインを酸素あるいは空気で気相酸化して、アクリル酸を製造する際に使用するものにして、モリブデン酸塩とバナジン酸塩がそれぞれに含まれる MoO_3 と V_2O_5 を基準にして $\text{MoO}_3/\text{V}_2\text{O}_5$ 重量比で2~8であり、これに硫酸鉄または(および)硫酸ビスマスが前記 MoO_3 と V_2O_5 の総量を基準にしてその3重量%以下の比率で配合され、300~400°C の温度で焼成し調製された触媒。
15	42-14330 (42. 3. 7)	52-8280 (52. 3. 8)	898910 (53. 2.25)	塩化アルカリ用極黒鉛の部分不透過処理方法 (矢守 勝二, 村田 静夫)	充填材として使用される黒鉛材料の通気性に適合する3000~9000センチ・ストークス/25°C の桐油の部分重合油又は部分重合桐油を主体とした混合油を使用し、これを陽極黒鉛のリードイン部分に透過充填後、200~250°C にて20~30分間熱処理を行うことを特徴とする塩化アルカリ用陽極黒鉛の部分不透過処理方法。
16	47-64935 (47. 6.30)	52-18684 (52. 5.24)	900497 (53. 3.15)	塩素化炭化水素の回収法 (柿原 佑吉, 田中 武司, 依田 勝男, 山根 豊)	塩化第二鉄の存在下で炭化水素と塩素とを反応させてえられた粗塩素化炭化水素を水で洗浄し、えられた廃水を300 mmHg 以下の圧力で蒸留することを特徴とする塩素化炭化水素の回収法。
17	47-114285 (47.11.16)	52-30993 (52. 8.11)	902542 (53. 3.30)	塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 藤田 宜宏, 鈴木 祐二)	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下に1塩化ビニルと2マレイン酸あるいはその誘導体の少くとも1種と3第三単量体成分としてオレフィン、アクリル酸エステル、メタクリル酸エステル、マレイン酸エステルおよび脂肪酸のビニルエステルからなる単量体群から選ばれた少くとも1種類の単量体とを共重合させることによって透明性と耐衝撃性にすぐれた塩化ビニルグラフト共重合体を製造するにあたり該エチレン-酢酸ビニル共重合体としてメルトインデックスが0.5~200g/10分で、酢酸ビニルを10~50重量%含むものを用い、しかも該塩化ビニルグラフト共重合体の組成が該エチレン-酢酸ビニル共重合体2~20重量%、塩化ビニル70~95重量%、マレイン酸誘導体0.2~10重量%および第三単量体成分0.5~30重量%からなることを特徴とする塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法。

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
18	47-114287 (47.11.16) (小坂勇次郎, 植村 勝, 藤田 宜宏, 鈴木 祐二)	52-32394 (52. 8.20)	902543 (53. 3.30)	塩化ビニルグラフト共 重合体の製法	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下に(1)塩化ビニルと(2)第二単量体成分および(3)第三単量体成分とを共重合させることによって透明性にすぐれしかも内部可塑化された塩化ビニルグラフト共重合体を製造するにあたり,該エチレン-酢酸ビニル共重合体として,メルトインデックスが0.5~200g/10分で酢酸ビニルを20~70重量%含むものを用い,第二単量体成分としてアクリル酸,メタクリル酸,イタコン酸,無水マレイン酸,マレイン酸およびマレイン酸のアルキルエステルの内少くとも一種の単量体を第三単量体成分としてオレフィン,アクリル酸エステル,メタクリル酸エステル,マレイン酸エステル,アルキルビニルエーテルおよび脂肪酸のビニルエステルの内少くとも一種の単量体をそれぞれ選んで共重合を行い,しかも該グラフト共重合体の組成が該エチレン-酢酸ビニル共重合体40~80重量%,塩化ビニル20~60重量%,第二単量体成分0.2~10重量%および第三単量体成分0.5~30重量%からなることを特徴とする塩化ビニルグラフト共重合体の製法。
19	48-80874 (48. 7.23) (植村 勝, 齊藤 光高, 鈴木 祐二)	52-31236 (52. 8.13)	902544 (53. 3.30)	耐衝撃性スチレン系樹 脂の製法	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下に,(1)塩化ビニルと(2)オレフィン,アクリル酸エステル,メタクリル酸エステル,飽和脂肪酸のビニルエステル,マレイン酸エステルおよびフマル酸エステルからなる単量体群の少なくとも一種の単量体とを共重合させ,ついで得られた該重合生成物の存在下で更に(3)アクリルニトリルと(4)スチレンとを共重合させることを特徴とする耐衝撃性スチレン系樹脂の製法。
20	48-141864 (48.12.20) (小坂勇次郎, 井村 信一, 藤木 時男, 佐古 秀典, 藤井 秀雄)	52-32768 (52. 8.24)	902545 (53. 3.30)	水溶性感圧接着剤組成 物	ポリエチレンイミン100重量部とでんぶん系水溶性高分子化合物10~100重量部を含む水溶液からなる水溶性感圧接着剤組成物。
21	48-141865 (48.12.20) (小坂勇次郎, 井村 信一, 藤木 時男, 佐古 秀典, 藤井 秀雄)	52-32769 (52. 8.24)	902546 (53. 3.30)	水溶性の感圧接着剤組 成物	ポリエチレンイミン100重量部,でんぶん系水溶性高分子10~100重量部,ポリアクリル酸1~30重量部を含む水溶液よりなる水溶性感圧接着剤組成物。
22	49-16816 (49. 2.13) (小坂勇次郎, 井村 信一, 佐藤 真一, 齊藤 光高)	52-31233 (52. 8.13)	902547 (53. 3.30)	ガラス被覆用樹脂の製 造方法	酢酸ビニル5~40重量%を含むエチレン-酢酸ビニル共重合体をけん化して得られる,けん化度が20~95%の部分けん化エチレン-酢酸ビニル共重合体80~99重量部の存在下, α - β -不飽和カルボン酸あるいはその無水物1~20重量部を重合するにあたり,炭素数5~8のパラフィン系炭化水素98~60重量%を該部分けん化エチレン-酢酸ビニル共重合体を溶解する芳香族炭化水素2~40重量%とからなる混合溶媒中に,該部分けん化エチレン-酢酸ビニル共重合体を粉末のまま懸濁し,ラジカル開始剤を該単量体に対し0.01~1.0重量%用い20~100°Cの温度で

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					グラフト重合することを特徴とする、ガラス容器への粉末被覆材料としてすぐれた重合体の製造方法。
23	49-45133 (49. 4.23)	52-32791 (52. 8.24)	902548 (53. 3.30)	熱可塑性樹脂の製造方法 (小坂勇次郎, 井村 信一, 斉藤 光高, 小岩 成次)	エチレン-酢酸ビニル共重合体またはグラフト活性化処理したエチレン-酢酸ビニル共重合体5~40重量部を, メタクリル酸メチル単量体100重量部またはこれと共重合可能な単量体0~30重量部に溶解した混合溶液を重合するに際し, 少なくとも相転移が生ずるまで塊状重合で予備重合し, しかる後懸濁重合系に移し重合を完結させる方法において, エチレン-酢酸ビニル共重合体に対し貧溶媒で, かつメタクリル酸重合体に対して良溶媒であるような溶剤を, 該メタクリル酸メチル単量体100重量部に対して1~100重量部を加えて重合することを特徴とする耐衝撃性, 透明性, 成形加工性に優れた熱可塑性樹脂の製造方法。
24	46-15829 (46. 3.22)	52-33091 (52. 8.26)	904114 (53. 3.20)	1, 4-ジアセトキシ-2-ブテンの製造法 (小野 勲, 古賀 俊国, 岡田 宏亮, 柳原 忠久, 西村 滋哲)	ブタジエンのオキシアセトキシル化生成物から, 3, 4-ジオール-1-ブテンのモノ酢酸エステルおよび水を除去し, 3, 4-ジアセトキシ-1-ブテンを含む該除去処理取得物を硫酸と接触させることを特徴とする1, 4-ジアセトキシ-2-ブテンの製造法。
25	49-115227 (49.10. 8)	52-33087 (52. 8.26)	904115 (53. 3.20)	2-クロルブタジエン-1, 3の製法 (末永 忠行)	水酸化カルシウムと硫酸ナトリウムを共用することによって, 3, 4-ジクロルブテン-1の脱塩酸反応をおこなうことを特徴とする2-クロルブタジエン-1, 3の製法。
26	49-127057 (49.11. 6)	52-33087 (52. 8.26)	904116 (53. 3.20)	クロロプレンの製造法 (小坂勇次郎, 末永 忠行)	3, 4-ジクロルブテン-1 からクロロブレンモノマーを製造する方法において, エチレンアミン類の存在下に行うことを特徴とするクロロブレンモノマーの製造法。
27	50-53258 (50. 5. 6)	52-32995 (52. 8.25)	904117 (53. 3.30)	白度の高いエチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製法 (小坂勇次郎, 井村 信一, 斉藤 光高, 佐藤 真一)	酢酸ビニル含量10~50重量%のエチレン-酢酸ビニル共重合体を低級アルコール媒体中で, アルカリケン化するに際し, アンモニアおよび/またはアンモニア誘導体を添加することを特徴とする白度の高いエチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製法。
28	47-100304 (47.10. 7)	52-35070 (52. 9. 7)	906220 (53. 4.18)	接着性にすぐれた重合体の製造方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 藤木 時男, 木村 正歳, 斉藤 光高)	エチレン-酢酸ビニル共重合体およびポリオレフィンをも包含する炭化水素またはその塩素化物の存在下, アルキルアクリレートと無水マレイン酸および/または α - β の位置がエチレン的に不飽和なカルボン酸を共重合することからなる接着性にすぐれた重合体の製造方法。
29	47-106679 (47.10.26)	51-43511 (51.11.22)	906221 (53. 4.18)	熱融着層を有するラミネートの製造方法 (藤木 時男, 柴田 泰二, 植村 勝, 山木 鉄也, 藤井 秀雄, 小坂勇次郎)	(1)酢酸ビニル含量15~40重量%のエチレン-酢酸ビニル共重合体97~70重量%, (2)環球法軟化点60~130°Cの低分子量スチレン系重合体あるいは共重合体から選ばれる1種または2種以上の改質剤3~30重量%からなる組成物にさらに脂肪酸アミド, ポリエチレングリコール, 水添ひまし油およびこれらの混合物から選ばれる添加剤500~5000ppmを加えてなるメルトイン

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					デックスが2~50g/10分の組成物を基材に溶解押出ラミネートすることを特徴とする低温で熱融着可能な熱融着層を有するラミネートの製造方法。
30	48-80494 (48. 7.19)	52-36551 (52. 9.16)	906222 (53. 4.18)	耐衝撃性スチレン系樹脂の製造方法 (齊藤 光高, 植村 勝, 鈴木 祐二, 佐藤 真一)	懸濁安定剤の水溶液中に分散させた酢酸ビニル含量 15~50 wt% のエチレン-酢酸ビニル共重合体を懸濁状態を保持したまま架橋させ、これにひきつづきアクリロニトリルとスチレンを加え、有機過酸化物を用いて懸濁重合させることを特徴とする耐衝撃性スチレン系樹脂の製法。
31	50-62532 (50. 5.27)	52-31254 (52. 8.13)	906223 (53. 4.18)	塗被紙用組成物 (小坂勇次郎, 井村 信一, 藤田 宜宏, 今浜 敏信)	a) 顔料, b) 澱粉または変性澱粉を一成分とする接着剤および c) グリオキザール, 尿素樹脂, メラミン樹脂, メチロールメラミン樹脂より選ばれた上記澱粉類の耐水化剤, 以上の三者を主成分とする組成物にビニルスルホン酸のアルカリ塩重合体または共重合体を前記顔料100重量部に対して0.05~10重量部の範囲で配合してなる塗被紙用組成物。
32	50-55630 (50. 5. 8)	52-35711 (52. 9.10)	907646 (53. 5. 8)	管状型反応器の重合工程の制御方式 (久保 正宏, 佐知 清吾, 根津 和雄, 郷 久雄) (横河電機製作所と共願)	1個または複数個の原料ガス供給側路が長さ方向の途中に結合された管状型反応器を用いる高圧法ポリエチレン重合工程において、側路を流れる原料ガスの量を調節するべく設けられた弁の開度を制御する信号が、反応器内部に流動衝撃を与えるべく反応器出口に設けられた弁を開閉するための制御信号あるいはその結果として反応器内に生ずる圧力または温度の変動と関係せしめて補正され得ることを特徴とする管状型反応器の重合工程の制御方式。
33	46-18744 (46. 3.31)	52-39075 (52.10. 3)	907789 (53. 5. 8)	α -オレフィンの重合法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 高本 邦夫, 秋元 明)	主鎖に多数のエーテル結合を有する高分子化合物と三塩化チタンを重量比で1:0.5~30の範囲で構成された三塩化チタン組成体とアルキルアルミニウムまたはアルキルアルミニウムハライドからなる触媒を使用して、少くとも3個以上の炭素数を有する α -オレフィンを重合する方法。
34	48-123999 (48.11. 6)	52-39628 (52.10. 6)	907790 (53. 5. 8)	塩化ビニル系樹脂発泡体の製造方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 野口 勉, 岡田 宏亮)	エチレン-酢酸ビニル共重合体の含有率が8~50重量%の、エチレン-酢酸ビニル共重合体に塩化ビニルをグラフト共重合体して得られる樹脂にアジカルボンアミド、半減期1分の分解温度が160~190°Cの範囲にある有機過酸化物と安定剤を分散混合した組成物をプレス温度150~190°Cで加圧下に加熱して発泡させることを特徴とする均一微細な独立気泡を有する、変色のない塩化ビニル系樹脂発泡体の製造方法。
35	49-104947 (49. 9.13)	52-39704 (52.10. 6)	907791 (53. 5. 8)	通水、通気性のある成形体の製造方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 山本 鉄也, 俵口 照海, 青木 哲也, 岡田 宏亮, 村上 興功)	熱可塑性樹脂に該樹脂の軟化温度より少なくとも30°C以上高い軟化温度を有し、かつ吸湿性を有する物質で少なくとも0.1mm以上の大きさで、水分を少なくとも0.3%以上吸湿した又は湿潤させた状態で配合してこの物質の軟化温度より低く、該熱可塑性樹脂の軟化温度より高く、かつ、水の沸点より高い温度で、押出成形した後、直ちに急冷する事の特徴とする通水、通気性のある成形体の製造方法。

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要 旨
36	50-70165 (50. 6.12)	52-32987 (52. 8.25)	907792 (53. 5. 8)	重合体エマルジョンの製造方法 (清水 明彦, 林 隆夫)	エチレン性不飽和二重結合を有する単量体中で該単量体100重量部に対して0.1~10重量部の活性ハロゲンを含むビニル単量体と0.1~10重量部の高級アミンを反応させ、次いで水を加えてラジカル重合することを特徴とする低乳化剤カチオン型重合体エマルジョンの製造方法。
37	50-70166 (50. 6.12)	52-32988 (52. 8.25)	907793 (53. 5. 8)	重合体エマルジョンの製造法 (清水 明彦, 林 隆夫)	<p>水系媒体中、全単量体100重量部あたり0.1~10重量部の一般式</p> $ \begin{array}{c} R_1 \\ \\ (CH_2=C-CH_2)_n^{\oplus} N \begin{array}{l} \diagup (R_2)_{3-n} \\ \diagdown R_3 \end{array} X^{\ominus} \end{array} $ <p>(但し、R₁ は水素もしくはメチル基、R₂ は水素メチル基もしくはエチル基、R₃ は炭素数が6から22までのアルキル基、n は1, 2, 3、X はハロゲンである) で表わされる化合物の存在下エチレン性二重結合を有する単量体をラジカル重合することを特徴とするカチオン型重合体エマルジョンの製造法。</p>
38	47-56071 (47. 6. 7)	52-36519 (52. 9.16)	908750 (53. 5. 8)	ポリ塩化ビニルを原料として活性炭を製造する方法 (大槻 進, 宮之原 勲, 水井 規雅, 河村 秀雄)	ポリ塩化ビニルを酸素雰囲気下あるいは酸化性物質の存在下で加熱して脱塩化水素反応生成物を調製し、次いで該生成物を賦活あるいは炭化、賦活することからなるポリ塩化ビニルを原料として活性炭を製造する方法。
39	48-74868 (48. 7. 4)	52-38597 (52. 9.29)	908751 (53. 5. 8)	不飽和ポリエステル製の製法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 高本 邦夫, 秋元 明)	<p>触媒として、一般式</p> $ \begin{array}{c} \text{ONa} \\ \diagup \\ R_1O-P \\ \\ O \\ \diagdown \\ \text{ONa} \end{array} $ <p>(ここで R₁ は炭素数1から20までを有する飽和または不飽和の脂肪族炭化水素残基、芳香族炭化水素残基またはその両者を有する残基である。)</p> <p>もしくは、$R_1O-(CH_2CH_2O)_n-P \begin{array}{l} \diagup \text{ONa} \\ O \\ \diagdown \text{ONa} \end{array}$</p> <p>(ここで R₁ は前記 R₁ と同一であり、n は1から3の整数である。) で表わされる化合物を用いることを特徴とする。少くともその一部が無水マレイン酸であるジカルボン酸無水物とアルキレンオキッドから不飽和ポリエステルを製造する方法。</p>
40	49-35194 (49. 3.30)	52-39657 (52.10. 6)	908752 (53. 5. 8)	ゴム状弾性体の製法 (宮川 俊男, 小林 政明, 山下 晋三, 三道 克己)	a) ヒドロキシル基を有するブタジエン重合体またはブタジエン共重合体と、b) ヒドロキシル基をその分子内に少くとも2個以上有する可塑剤とを混成し、c) この混成ゴムの有する全ヒドロキシル基にたいして0.1から5モル倍ま

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					でのシクロヘキシル基含有ジイソシアナートを添加して共加硫を施すことを特徴とするゴム状弾性体の製法。
41	47-53831 (47. 6. 1)	52-42754 (52.10.26)	910948 (53. 6.14)	ポリ塩化ビニルから活性炭を製造する方法 (大槻 進, 宮之原 勲, 水井 規雅, 河村 秀雄)	塩化ビニル系樹脂を粉碎して流動層に送り込むとともに, 流動媒体に随伴して流動層内を移動させ, 流動層内を移動する過程で250~600°Cの温度範囲で脱塩素乾留し, 次いで脱塩素された乾留物を700~1000°Cの温度範囲で水蒸気賦活することを特徴とする塩化ビニル系樹脂を原料とする活性炭の製造法。
42	50-69565 (50. 6.11)	52-39928 (52.10. 7)	911046 (53. 6.21)	クレーコート紙用組成物 (小坂勇次郎, 井村 信一, 江村 徳昭, 今浜 敏信)	a) 顔料, b) 澱粉または変性澱粉を一成分とする接着剤, および c) グリオキザール, 尿素樹脂, メラミン樹脂, メチロールメラミン樹脂より選ばれた上記澱粉類の耐水化剤, 以上の三者を主成分とする組成物に, グリコン酸, グリコン酸の塩またはグリコノラクトンを前記顔料100重量部に対して0.05~10重量部の範囲で配合してなるクレーコート紙用組成物。
43	48-141910 (48.12.20)	52-9561 (52. 3.17)	913151 (53. 7.21)	溶銑脱硫剤 (前田 宏, 山鹿 素雄, 中島 廣久, 堀 恭一, 有家 潤二, 有馬賢一郎) (日本鋼管と共願)	(1) 炭酸ソーダ100重量部に対して亜鉄酸ソーダ30~70重量部を混合した混合物を粒径3~40mmに造粒したことを特徴とする溶銑脱硫剤。 (2) 炭酸ソーダ100重量部に対して亜鉄酸ソーダ30~70重量部, 苛性ソーダ40重量部以下を混合した混合物を粒径3~40mmに造粒したことを特徴とする溶銑脱硫剤。
44	46-68523 (46. 9. 7)	52-43829 (52.11. 2)	913417 (53. 7.21)	シクロドデカノールの製造方法 (小野 勲, 古賀 俊国, 柳原 忠久, 深堀建太郎, 西村 滋哲)	シクロドセンと硫酸の反応により得られるシクロドデカン酸性硫酸エステルに, 温度を0~50°Cに保持して加水分解後の水/硫酸の重量比が0.6以上になるように水(または水水)を加えた後, 加水分解することを特徴とするシクロドデカノールの製造方法。
45	47-99777 (47.10. 6)	52-43182 (52.10.28)	913424 (53. 7.21)	酸化イオウを含有する排ガスの脱硫法 (川澄 義明)	海水に石灰乳を加え, 得られる水酸化マグネシウムを沈降させ, 脱マグネシウム海水と水酸化マグネシウムスラリーとし, このスラリーを必要に応じて水或は海水で洗浄した後酸化イオウを吸収させて亜硫酸マグネシウムを含む水酸化マグネシウムスラリーとし, ついで亜硫酸マグネシウムを酸化して硫酸マグネシウムを含む水酸化マグネシウムスラリーとし, これを分離して得られる硫酸マグネシウム溶液をそのまま, 又は前記脱マグネシウム海水と混合して海に排棄し, 硫酸マグネシウム溶液と分離した水酸化マグネシウムスラリーを前記海水から得られる水酸化マグネシウムスラリーと混じて酸化イオウ含有排ガスと接触させる事を特徴とする酸化イオウを含有する排ガスの脱硫法。
46	48-92099 (48. 8.18)	52-44348 (52.11. 7)	913440 (53. 7.21)	ポリ塩化ビニルの多孔性成型物を製造する方法 (大槻 進, 宮之原 勲, 水井 規雅)	懸濁重合法で製造したポリ塩化ビニルを主体とした樹脂を粉碎して粒度200メッシュ通過が80重量%以上である粉末樹脂となし, これに水または/および有機溶剤を混練し加熱溶融するこ

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					となしに押出成型し、次いで熱処理すると同時に水分または／および有機溶剤を除去することからなるポリ塩化ビニルの多孔性成型物を製造する方法。
47	48-92100 (48. 8.18)	52-44349 (52.11. 7)	913441 (53. 7.21)	ポリ塩化ビニルの多孔性成型物の製造法 (大槻 進, 宮之原 勲, 水井 規雅)	乳化重合法で製造したポリ塩化ビニルを主体とする樹脂（粒子径約 0.1~50 μ ）に乳化破壊剤と水を添加混合し混練後加熱溶解することなしに押出成型し、次いで熱処理すると同時に水分を除去することからなるポリ塩化ビニルの多孔性成型物の製造法。
48	49-45132 (49. 4.23)	52-44574 (52.11. 9)	913452 (53. 7.21)	エチレン-酢酸ビニル共重合体イオウ加硫物の製法 (宮川 俊男, 小林 政明, 井上 則男, 高橋 義明)	a) エチレン-酢酸ビニル共重合体に, b), a) にたいして0.5から8.0重量%までのサルフォニ酸基を有する化合物またはハロゲンのオキソ酸を添加して加温処理し, さらに c), a) にたいして0.2から5.0重量%までのイオウを混成したのち, または a), b) および c) を同時に混成したのち, 加硫を行うことによるエチレン-酢酸ビニル共重合体イオウ加硫物の製法。
49	49-51273 (49. 5.10)	52-44575 (52.11. 9)	913455 (53. 7.21)	二重結合含有ゴム組成物の製法 (宮川 俊男, 小林 政明, 井上 則男, 高橋 義明)	a) 二重結合含有ゴム85~15重量部に, b) エチレン-酢酸ビニル共重合体にこのエチレン-酢酸ビニル共重合体に対して0.5から8.0重量%までのサルフォニ酸基を有する化合物またはハロゲンのオキソ酸を添加して, あらかじめ加温処理を施したのちまたは加温処理を施さないもの15~35重量部および, c) a) と b) との合計量に対して0.2から5.0重量%までのイオウを混成したのち, 加硫を行うことによる二重結合含有ゴム組成物の製法。
50	49-73422 (49. 6.28)	52-43675 (52.11. 1)	913458 (53. 7.21)	p-スチレンスルホン酸アンモニウム重合体の製造方法 (服部 達夫, 玉林 範三, 桂川 寛二, 木原 啓一, 小野 勲)	アルコール系溶媒または有機溶媒と水との混合溶媒中で, p-スチレンスルホン酸アルカリ金属塩単量体を無機アンモニウム塩の共存下で重合せしめることを特徴とする p-スチレンスルホン酸アンモニウム重合体の製造方法。
51	49-147651 (49.12.24)	52-3920 (52. 1.31)	913468 (53. 7.21)	α 型半水石膏の製造法 (佐藤 孝男, 井川 一成, 菊地 光雄)	湿式リン酸製造プラントより副生する付着水を有した α 型半水石膏を乾燥, 粉碎後, 90 $^{\circ}$ C 以上の温度において熱処理を施すことを特徴とする初期凝結性の安定した α 型半水石膏の製造法。
52	49-87172 (49. 7.30)	52-44584 (52.11. 9)	914551 (53. 7.21)	ホットメルト材加工押出装置 (植村 勝, 笠松 正, 秋山 利光, 黒木 齊, 小坂勇次郎) (笠松化工と共願)	ホットメルト材原料供給用ホッパー口, このホッパー口に接続する, 実質的に円すい形で先端部が開口し, かつ, 比較的粗面に形成された大口径部を有する中空シリンダー, このシリンダーを加熱する機構, 前記シリンダーの内部で回転可能な円すい形スクリュウ機構, このスクリュウの大径部の冷却度を高めるための冷却機構, このスクリュウの軸表面と前記シリンダー内壁の間隙が開口部先端および供給口において1:2~10の比率で形成され, かつ, シリンダー壁面とこの壁面に隣接して回転するスクリュウのねじ山部に少なくとも1個の細溝および切欠溝が, 前記ホッパー口と前記先端部の中間部よりホッパー口寄りに形成されていることを特徴とするホットメルト材加工押出装置。